

別府大学アジア歴史文化研究所

研究所概要

わが国は、アジアの東端に位置し、その民族・文化ともども中国・朝鮮・琉球および東南アジア諸地域などとの密接な交流の中で、成立し発展してきた。九州各地とりわけ大分県内には、古代遺跡や美術工芸あるいは言語・宗教・風俗習慣など、アジア諸地域のそれらと明らかに関連する事跡が、数多く現存している。

日本民族の成立やその文化の発展の歴史を科学的に究明するには、なによりもまず、わが国とアジア諸地域との諸分野の交流過程を明らかにすることが不可欠の要件と考えられる。

別府大学では、従来、アジア諸地域にかかる諸課題について、広い分野にわたる研究がすすめられ、多くの成果をあげてきた。その中で昨年2月、それまで長期にわたって交流のあった中国科学院古脊椎動物・古人類研究所副所長呉汝康教授を本学に迎えて、中国古人類学についての特別講義・シンポジウムを行い、さらに7月には組織的な学術訪中団がはじめて派遣され、短期間ではあったが、きわめて広範な地域で、20数か所の遺跡を視察し、4つの専門研究所、10の国・省・県管理の博物館を訪れるなど、それぞれの専門研究者との学術的交流を実現して、多大な成果をあげることができた。

このような成果を基礎に、アジア諸地域の人文・社会・自然の各分野にわたる諸問題についての調査研究をいっそう発展させるとともに関連研究機関との交流を深め、あわせて、別府大学の研究と教育の発展に寄与することを目的として、この研究所が設置されたのである。

研究所開設までの経過

- | | |
|-------------|--|
| 1980年11月26日 | 教授会，研究所設立準備会発足。 |
| 12月11日 | 教授会，準備委員会提案の研究所設立についての基本的構想を承認。 |
| 12月19日 | 佐藤学園理事会，研究所設立についての教授会案を承認。 |
| 1981年2月～3月 | この間，準備委員会・学科長会議・全学協議会などで，研究所およびその運営の基本方針・研究所規則・同運営委員会規程案などを検討。 |
| 4月8日 | 教授会，研究所規則・同運営委員会規程を承認。これにもとづいて研究所職員を決定。1981年4月1日をもって，研究所発足を承認。 |

研究所職員

| | | |
|-----|----|--------------|
| 所長 | 教授 | 二宮 淳一郎 (人類史) |
| 研究員 | 〃 | 賀川 光夫 (考古学) |
| 〃 | 〃 | 林 章 (東洋史) |
| 〃 | 〃 | 岩尾 秀樹 (美術) |

| | | |
|------|-----|------------|
| 研究員 | 助教授 | 坂田邦洋 (人類学) |
| 〃 | 講師 | 仲嶺真信 (美術史) |
| 運営委員 | 教授 | 工藤茂 |
| 〃 | 〃 | 後藤重巳 |
| 〃 | 講師 | 染矢正一 |
| 〃 | 教授 | 二宮淳一郎 |
| 〃 | 〃 | 岩尾秀樹 |
| 事務長 | | 白井昭一 |

別府大学アジア歴史文化研究所の事業

海外交流

—— 訪中団の派遣 —— (1981年11月19日-12月4日)

研究課題

1929年、北京原人の頭骨化石がはじめて発見されてのち、とくに解放後の中国における古人類とその文化に関する研究の成果は、いまや世界的に注目されるものとなっている。特にわれわれ日本民族と文化の源流ともかかわって格別に深い関心がよせられる。

別府大学は、1980年2月これら諸問題について、中国科学院古脊椎動物・古人類研究所副所長呉汝康教授を招聘して解説を受けたが、今回はアジア歴史文化研究所の事業の一環として関係研究者を現地に派遣した。

訪中団は、中国々内を北京、西安、昆明、上海、杭州とたどって縦断したが、そこには人類のもっとも古い直系の祖先ともみられるラマピテクスをはじめ、人類の進化の跡を原人、旧人、新人とたどることのできる多くの遺跡と研究機関があった。

訪中団は、これら多くの遺跡をたずね、多くの研究者と意見を交しながら、人類の発生と進化、その文化創造の実態を観察、考察した。

研究行程

1981年11月19日より12月4日にいたる16日間

北京：周口店北京人遺跡、古脊椎動物・古人類研究所、考古研究所、動物研究所、北京自然博物館・中国歴史博物館。西安：大荔人遺跡、陝西省博物館。昆明：禄豊古猿遺跡、禄豊県博物館。上海：上海自然博物館、上海歴史博物館。杭州：浙江省博物館。

研究内容

中国に出土する古人類化石とその文化遺物は、原人、旧人、新人の各段階をおおうばかりでなく、アウストラロピテクス、ラマピテクスさらにシワピテクス、ギガントピテクス、ドリオピテクスなどにいたるまで、人類の発生とその初期進化のすべての段階に関連するものを含んでいる。われわれは、これら広範な資料とその研究成果に学ぶべき多くのものがある。

まず第1に、今回の行程のなかに、人類の発生と進化の主な段階を可能